

## 2025 年 2 月 16 日 株式会社宮田運輸（みらい会議）参加

今回は、2023 年に「日本でいちばん大切にしたい会社 審査員特別賞」を受賞された株式会社宮田運輸様（高槻市 運送業）が主催する社内会議（みらい会議）と社内木鶏会に参加させて頂きました。

### <宮田運輸について>

同社の宮田博文社長（現会長）が社長に就任された当初は（2012 年）、利益や数字を追求するあまり、社員を叱責することも少なくなかったといいます。



そのような中、2013 年 8 月同社のトラックとバイクが接触事故を起こし、バイクに乗っていた男性が死亡しました。事故時トラックを運転していた従業員は、ドライバーではなく配車係でした。事故当日、人手が足りないところに追加の運送依頼が舞い込み、もともとドライバーだった従業員が自主的にトラックを出して、事故を起こしてしまったのです。

「社長就任直後、『25 年後の 70 周年には売上高 300 億円、従業員数 2000 人規模の会社に成長させる』と目標を立てましたが、順調にいかず焦っていました。その焦りや態度が、事故を引き起こした原因だ」と考えた社長は、「従業員を単なる“人材”ではなく、（代替のきかない）一人の“人間”として扱う」方針に切り替えたそうです。

それ以降、社員をとことん信じる経営に取り組み、2023 年に「日本でいちばん大切にしたい会社 審査員特別賞」を受賞されました。

また、この交通事故をキッカケに、トラックに子どもの絵をラッピングして、事故抑止につなげる仕組み「こどもミュージアムプロジェクト」を 2018 年からはじめました。この取り組みは、国内外で大きな評判を呼び、現在 150 社以上の企業が参加しているそうです。

### <みらい会議について>

宮田運輸では、毎月 1 回「みらい会議」というものを開催されています。

「みらい会議」は、休日に開催され、社員・幹部の参加は完全に自主参加。参加する社員は家族・恋人を連れてくるのも OK です。さらに経営数字も含めて一般公開されています（事前申し込みすれば社外の人も参加可能）。数字の入った配布資料の持ち帰るもできます。

同社は、「みらい会議」を『どの現場にも埋もれている「いいエピソード」がいっぱいある。それにスポットライトをあて、多くの仲間を感じてもらい』とし、会議の場を社員の主体性を育んでもらう場として捉えています。まさに、社員が主役になれる場になっています。

社長の挨拶から始まって、動画フィロソフィー※、各事業所の業績実績等報告の流れで進んでいきます。

※宮田運輸ではフィロソフィーを成文化して共有するのではなく、現場の何気ないエピソードを当事者に対して上司がインタビューしたショートムービーという形で月に1本ずつのペースで共有しているそうです。そのムービーを上映し、社長がコメントします。

#### <みらい会議に参加しての感想>

オブザーバー参加させていただいての感想です。

「本当に子どもが来てる」から始まって驚きの連続でした。

社員の自主性や社内情報公開の重要性を言う会社（社長）は多いですが、実際に経営数字を公開し、各事業所にその達成を委ねる会社は多くありません。宮田社長の言われる「数字は現場がつくる、現場に光をあてる」の実践が、正にここだ、と実感しました。

また、親子兄弟の社員が50組以上あることにビックリです。親子兄弟の一方が先に勤務し一方を呼んだと推測されます。親族に勧められるのは自社を愛している証拠だと思います。

さらに、女性（20数歳で事業所所長）や勤続年数が少ない社員が活躍していることも素晴らしいと思います。

そのような中で、いちばん感激したのは、美点凝視の実践です。一般的な経営会議では、「なぜ赤字？なぜ未達？対策は？」・・・など、計画未達や赤字の原因を追求する場面が多いです。発表者も言い訳ばかり・・・。

しかし、この会議ではそれが一切なし！

「この取り組みがうまくいった理由は？」

「いつも雰囲気の良いのはなぜ？」・・・と、

うまくいっている部分にフォーカスした質問が飛び交っていました。正に、美点凝視の実践です。

（以上）

